

2021年春復興庁主催学生インターンシッププログラム
葛尾創生電力株式会社インターン生によるイベントレポート
令和3年3月13日

イベント目的

今回葛尾創生電力株式会社主催イベントを小学生に向けて再生可能エネルギーや葛尾創生電力株式会社の認知向上を図るとともに、将来、生徒が葛尾村について思い出したり、住み続けたいと思ってくれるようにすることを目標にイベントを企画、開催した。

イベント内容

[当日スケジュール]

9日

13:00-13:15 冊子を使って説明

13:15-13:20 クイズ回答

10日

13:00-13:15 実験

13:15-13:20 クイズ答え合わせ

2021年度3月9日・10日を通し、葛尾村在住の小学生に向けてイベントを行なった。今回のイベントは新型コロナウイルスの感染症対策の為急遽オンライン開催となり、学校側では教頭先生をはじめとした多くの先生方にご協力いただいた。イベント当日には学生に対し再生可能エネルギー、環境問題やSDGsについての説明をした。また、イベントの途中には実験などを通して再生可能エネルギー事業の仕組みなどを学生たちが楽しく学んでいける様な工夫をした。今回のイベントの最終目的である、イベントを通し学生が葛尾村の素晴らしさを再確認し、将来村を思い出したり、住み続けたいと思ってくれるように、イベント自体を楽しく参加できるように実験、クイズ等の様々なアクティビティも取り入れた。例えば、様々な題について説明している時、ただ生徒に対して語るのではなく、質問を投げかけるなどお互いが活発な交流をしていけるような機会を沢山設けるようにした。

イベント当日

- 1日目（説明とクイズ回答）

イベント当日はGoogle Meetを使用し、画面越しに学生たちと触れ合うことが出来た。イベント初日である9日には主に再エネについての説明などを行うためにプロジェクターを利用した。さらに、Google Meetの画面共有機能を活用し、事前に準備したパワーポイントを見せながら学生たちにより良く理解してもらえるような工夫をした。説明の最中に、学生に対し、手をあげてもらいなど質疑応答をしてもらい、インターネット経由でも触れ合えるようにした。そのため、説明の部分はただ情報を伝えるのではなく、学生と一緒にそれぞれの説明項目に進行することが出来た。学生たちも、積極的に手を挙げたり、声を出し応答してくれるなど、楽しみながらイベントに参加している様子を伺うことが出来た。

一方、オンラインにイベントならではの難点も多くあった。**Google Meet** を活用したオンラインイベントの為、実際に現場で行う時には容易に行えるはずの生徒との意思疎通が難しかった。特に、インターネット経由のため少し時間のズレなどが発生することが度々あり、質疑応答をスムーズに行うことに苦戦した。また、一つの画面上に**8人**の小学生を収まりきるようにカメラの位置が設定してあるため、なかなか学生一人一人の表情などを確認することが出来ず、現地での雰囲気を感じることが難しかった。クイズ回答を行う時は「わからない」という声が聞こえたため一緒に問題文を読みながら回答してもらった。この時、問題文が難しく分らなかったのか、漢字が読めなくて分らなかったのかが判断が付かなかったが、一緒に読み上げることで回答の手助けになっていた様子だった。

1日目は予定していた開始時間より遅れてしまい、冊子、パワーポイントを使った説明が駆け足になってしまったが制限時間内に予定していたことを全て行うことが出来た。

- 2日目（実験、クイズ答え合わせ）

イベント2日目は葛尾村でどのように電力が流れているのか、どのように生徒の生活に関わっているかをイメージしやすいよう、実験を行った。2つの葛尾村の地図をベースとした実験回路を準備し、生徒に、学校に見立てた**LED**ライトへ電気を灯してもらった。本番では回路の接続が悪く、片方の回路のみ電気を通すことができました。イベントの最後のアクティビティとして、前日に生徒に回答してもらったクイズの答え合わせを全員で行った。この答え合わせでは生徒全員が手を上げて参加することができ、楽しめている様子が伺えた。全問正解ができた生徒も見られ、盛り上がる事が出来た。教職員の方々が回路の接続やアルミホイルを折るときに手伝ってくださり、スムーズにイベントを進めることができた。

しかし、2日目もオンライン開催の難しさがあった。実験を行う上で、生徒たちの手元が画面越しにはっきりと見えず、教室で何が起きているのか把握することが難しかった。また、片方の回路は電気が通り、もう片方は通らなかったため、生徒間で温度差が出てしまったように伺えた。しかしクイズの答え合わせを終え、最後に生徒に2日間のイベントを楽しめたか問いかけたとき、「楽しかった」と手を上げてくれて楽しそうに手を振ってくれたのが印象に残った。

準備段階（難しかった点）

イベント準備にあたってイベント内容が当初の予定から大きく変わったことが何度かあった。一つとして、何日にイベントを開催していいのかをプロジェクトの序盤で確認できなかったため、イベントの内容を詳細に計画することが難しかった。また、当初において授業中か放課後にイベントを開催しようと考えていたり、葛尾村復興交流館を利用しようとしていたが、学校側の都合もあり、9日と10日の休み時間中に学校で行うということをプロジェクトの後半に知ることができた。このようにイベントの開催場所や時間帯などが早い段階で確定しなかったため、イベント内容をなかなか決めることができなかった。さらに、イベントに参加する学生の人数などもイベント数日前に知ったため、実験のやり方（どのぐらいの人数のグループを何組作るのかなど）を確立させるのが大変であった。これらのことから、

なるべく早い段階でイベントの日程や開催状況などを把握することが、より効率的なイベント準備を行ううえで重要であると考慮できる。

今回のイベント開催にあたって考慮しておかなければいけないことに新型コロナウイルス感染症対策があった。イベント会場が葛尾小学校であったため、より慎重な感染症対策が必要になった。そのため、当初計画していた実際に現場で小学生と交流しながらイベントを進めていくという案が白紙になった。そして、インターネット経由で小学生と交流しながらイベントを開催するという方法を考えていかなければいけないことが難点であった。特に、イベントにおいて太陽パネルなどを用いながら行う実験コーナーをインターネット経由から学生に現地で活動してもらうことを、どのようにすればいいのか考えなければいけなかった。そこで、イベントの目的や、内容、手順、現地にいる先生方に手伝って欲しいことなどを詳細に記載したイベントマニュアルを作成した。これをイベント前までに学校職員の皆さんに読んでいただくことによって、インターネット経由からでも支障なくイベントを開催することが出来た。

実験用具などを準備するにあたって、どのような実験を行うのかを決める必要があった。幸いにも早い段階で大まかな実験内容は決めることができたため、何を新たにネット通販で購入すればいいのかのリストを制作することができた。しかし、実験内容を新たに発案したため、自らの力で電気回路などを考える必要があった。そのために、ブレッドボードや、電圧の仕組み、回路の繋ぎ方などを勉強する必要があった。それでも、イベント本番までにはしっかりと実験用具を制作することができた（イベント本番では2つあるうちの1グループにおいて、うまくLEDライトが点かないというトラブルもあったが）。また、電気回路を設置する土台を葛尾村の地図にするなどし、実際に葛尾創生電力が取り組もうとしているスマートコミュニティ構想を実験内容に関連させることができた。

準備段階（イベント作成までの経緯）

イベント開催にあたり、まずは葛尾創生電力と村全体の関係性を知るところから始まった。その際、副社長、小椋様をはじめ、社員の皆様からのヒアリング情報、また葛尾村の住民に対して行われたエネルギーに関するアンケート調査結果なども参考にして企業理解を深めた。企業、太陽光発電に対する認知度がまだまだ伸びる可能性があることを知った。2月9日、小椋様との会議で、イベントの告知方法、予算、イベント対象者、レポートの内容等について大まかな内容を確認した。2月10日、チームでイベントの内容について話し合いを勧めた。電力バランスゲーム（電力の需給を考えるゲーム）、ごみ発電ゲーム、ふうふう風力発電、太陽光パネルを用いた実験等、様々な案が出ましたが、今回の対象が主に小中学生であることや、時間的な制約があり、今回のイベントのようになった。

2月12日、復興交流館あぜりあにてイベントを実施することを前提に「EVステーションや電気自転車」の見学なども視野に入れた。これに関連して、26日、SDGsについての説明を加えることを確定した。3月2日、小椋様からご連絡があり、オンライン実施となった。イベント中止となる可能性もあったとお聞きし、無事実施できるように調整くださった皆様に感謝申し上げます。

今後の動向（また小・中学生にイベントを行うべきか？）

今回のイベントを通し、小学生の方々が環境問題や再生可能エネルギーについて少しでも知ろうとしたことは大きな成果になった。授業などでは環境問題やSDGsについて学ぶ機会が今後増えていくが、今回のイベントのように葛尾村に関連させながらこれらの項目を学ぶということは、学生たちにとってより身近にこのような問題を感じてもらえると考えられる。また、イベントの最中に葛尾創生電力の説明をしたり、冊子などに葛尾創生電力の事業などを掲載することで、小学生やその家族に対して葛尾創生電力の認知を増やすことが出来た。そこで、今後も積極的に小学生を含む様々な世代の葛尾村住民に対し、葛尾創生電力に関連した交流事業を行うことで、企業の認知向上に繋がっていきける。また、インターネットを経由しながら別の場所にいる人と交流するということは、学生たちにとって今後必要になってくるインターネットの使用感覚を身につけるだけではなく、インターネットを利用することによって可能になった新たな交流方法を学ぶ良い機会になったと考えられる。そのため、今後も新型コロナウイルスに対する感染症対策を徹底しながらも、葛尾村やその村外の人々と交流するイベントをインターネット経由で行うことにより、学生中に学ぶことができる許容範囲が格段に増えると言える。

個人感想

今村

私は、発電・送電会社のスタートアップ、そして環境問題、地方創生に対して関心を持っており、これまで学術雑誌、書籍等を通して学んできたことと、実際の企業活動とのギャップを感じ取るために今回のインターンシップに参加しました。イベント立案・冊子作成・企画書の提出等、どれも私にとっては新鮮なことばかりで、毎日試行錯誤を繰り返していた。自身初めて、小・中学生対象アンケートの作成、Google formを用いたアンケートの作成を経験しました。やはり、調査対象者とのオンライン上でのやり取りを行うという点でかなり難しく、また保護者対象のアンケートフォームに関しては、アンケート実施についての連絡上の不備、不十分さなどもあり、回答が得られておりません。(2021年3月12日現在) まだまだ、インターン活動を通してやり切れない思いというものもありますが、今後の自身の活動の教訓として、また今後貴社、関係機関が様々なイベントを行う際の一つの事例としていただければ最高の幸せでございます。最後に、小椋様にはお忙しい中週一回のミーティングに参加していただいたほか、副社長、鈴木様にも参加していただき様々な生のお声を拝聴することができました。約1ヶ月半ありがとうございました。

五味

私は再生可能エネルギーに興味があり、更にイベント企画なども経験があったため、再生可能エネルギーについて学ぶためにこのインターンシップに参加した。インターンが始まったときはイベント企画も早く進み、プログラムや冊子づくりが早いペースで進んでいったが、イベント1週間前にオンライン開催へと変更になった。新型コロナウイルスの感染症対策ということでやむを得ない状況ではあったが、やはり残念な気持ちがあった。その気持ちを素早く切り替え、オンラインでも小学生に楽しんでもらえる方法を考え始めた。本来企画していた実験の方法をオンラインでも行えるよう変更をし、準備を勧めた。イベント当日になってみて、想定していた以上に画面越しの小学生の表情や反応が把握しづらく、問いかけを増やしてコミュニケーションを図ることを試みた。さらに、事前に作っておいた実験回路の一

つに電気が通らず、LEDを灯すことが出来なかった。イベント中は反応が見づらいことや、実験の一部失敗で気を取られ落ち込んでしまったが、最後にイベントが楽しかったか参加生徒に聞いたところ、「楽しかった!!」「面白かった!」とポジティブな声が聞こえ、安心した。このイベントを通して、全て予測不可能な出来事でそれに対応する力、気持ちを切り替えることを試され、成長したと感じます。更に、オンライン上のコミュニケーションで「伝える」難しさを改めて知った。初対面のチームメンバーとオンラインで意思疎通を行う上で、インターンの前半では対立することも多々あったが、話し合いを重ねお互いを理解し、イベント成功まで持っていくことができた。思い通りに進まない事が多かったが、最終的な目標の「小学生に楽しみながらSDGsについて知ってもらう」を達成できたのではないと思う。再生可能エネルギーについて学ぶために始めたインターンシップだったが、最終的にその他のさまざまなことを学ぶことができ、有意義な経験となった。

山本

今回のプロジェクトを通し、様々なことを学ぶことができた。まずはじめに、実際に地方における再エネ事業現状を学ぶことができた。なかなかこのような生の声を直接聴けることはないので、大変貴重な時間となった。また、今回のプロジェクト目標である小学生にイベントを通して再エネや葛電について、さらに葛尾村にいい印象持ってもらうために必要なことは何か真剣に考えられるいい機会になった。僕は小学生の方々にイベントを準備の段階から行うという経験がなかった。なかでも、再エネ事業や葛電の取り組みを小さい子供達に教えるという仕事を行なっていく中で、自身の再エネや電力会社の仕組みなどの知識向上にもつないでいけることができた。イベントの準備段階において、当初予定していた現地で小学生と一緒に交流しながらイベントを行うことが白紙になった。そのため、インターネット経由でこのイベントの目標を達成していく方法を新たに考えていくのが難しかった。特に、実験をインターネット経由で行うための手段や手順を考えていくのが大変だった。それでも、最終的には小学生も新しいことを学びながら楽しくイベントに参加してくれたため、イベントの目標を達成することができた。そして、今回のプロジェクトを通し、自身のイベント企画に関連するスキルを向上することができた。今後は、このようなスキルを大学生としての委員会活動などで活かしていけるようにしたい。さらに、小椋さんが常に僕たちの為に学校職員の方々と連絡をし、イベント開催に向けて現場で活動している姿をZoomミーティングやSlackなどのコメントから拝見することができた。その姿から、実際に社会人として働いていくたくましさや礼儀などはとても勉強になった。またこのような学びは、今後自身が社会で活動していく中で活かしていけると思えた。

まとめ

今回のイベントでは、目標としていた楽しみながらも新しい学びのあるイベントを主催するというのを達成することができた。当初計画していたことを変更し、オンラインイベントとなったが、今現状として何ができるのかを常に考えながらイベント準備に取り組めたことは意味のある活動となった。今後も、環境問題や、再生可能エネルギーについて、葛尾創生

電力などの葛尾村における地域の状況をイベントなどを通し、知るということは小学生にとっても今後成長していく過程で貴重な体験になると考慮できる。